

「羽包み(はくくみ)」

第22号 令和5年12月1日発行

自立援助ホーム「湘南つばさの家」

〒253-0022 神奈川県茅ヶ崎市松浪 1-12-17

TEL・FAX 0467-58-6260 shonan-tsubasa@marble.ocn.ne.jp

〔郵便局での振込みは〕 ゆうちょ銀行 振替口座 00200-5-81277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

〔銀行からの振込みは〕 ゆうちょ銀行 店名：029 当座 0081277 自立援助ホーム 湘南つばさの家

過ぎ去りしは、うたかたの夢

ホーム長 前川 礼彦

諸先輩方には怒られるかもしれないが、50代、自分がこの年代になるなんて想像もつかなかった。振り返ると途方もない年月だったが、あつという間だった。思い返せば色々はあったが、その時の自分が一生懸命生きてきた。

生き抜いて、この人生の終わりにどの様な心の風景が見えるか。若くして人生を全うしたホームの青年と約束してここまで歩いてきた。人生は沢山の人の関わるが、個人的な世界でもある。感じるもの、心の認識はその人だけのものである。そして時代は流れ、みな年を老い、老いては死に、新しい若者がこの世界を生きて時代を創る。死んでしまっても、知らない人にとっては何事もなかった様に過ぎ去り、この社会は時代とともに流れていく。この世は人生道場だと表現された方がいたがその通りだ。これからはどう生きるか。老いと向き合い、死の現実と向き合い、その上で生を生きる。だからこそ、命が輝くのだ。

過ぎ去りしはうたかたの夢。そう、過ごしてきた人生は振り返ればはかない夢を見ている様に思い出に消える。意識は今そしてこれからは続くもの。過去は幻のように脳裏におぼろげながら残るだけなのかもしれない。人生、どうだったろうか。何をなし得たか。与えられた時間、自分らしく生きられたらうか。幸せも苦しさもあった。でも、その時々に出逢った人達と紡いだ経験は、人生を彩らせてくれた。改めて出逢ってくれた人達とその経験には感謝したい。

振り返ったとき、人生これをしてきて良かったと思いたいじゃないか。まだ未来があるなら、そう思える行動を心掛けたい。人生、順番だ。その時々で抱える心身の健康に翻弄されながら生きる。未来が当たり前でなく、いつ人生の終結があったとしても、自分らしく生きられるであろうか。みな自分の人生を背負わなければならないのだ。

人生がうたかたの夢であったとしても、この人生がどうだったのかを振り返り、今振りかかるものから何を見出し、それでも未来を見据えて後世に託せるものがあれば良い。

いつも湘南つばさの家を支えて下さり、誠に有難うございます。